



かるに

文章假字用格卷

朕 <small>天子の自称</small> これ	若 こ	鱈 こ <small>小魚</small>	二言	わ 和倭王 淀 <small>音</small> 廻輪丸 訓	一言	和部	文章假字用格卷之二
予	我 が	割 り					
余	綿 こ	破 り					
吾	腸 こ <small>身</small>	和歌 こ					

黄葉園藏

豊後

大藏永常著

轉々堂藏書

む <small>早六丁 左</small>	な <small>廿九丁 左</small>	つ <small>卅三丁 左</small>	れ <small>卅七丁 左</small>	よ <small>四十丁 左</small>	わ <small>初丁</small>
	ら <small>四十三丁 左</small>	ね <small>卅七丁 左</small>	ろ <small>三十三丁 右</small>	た <small>二十丁 左</small>	か <small>六丁 右</small>



文章假字用格卷二 ②	王地 <small>上と同ト</small>	笑	童	僮	渡	新樹	若氣	我世	吾河
	王家	藁火	草鞋	纜	直理	腸煮	和合	分	縮
	王位 <small>帝位と同一ト</small>	蕨	草亭	和南	渡瀬 <small>地名</small>	轍 <small>車の輪のわき</small>	若枝	若音	別
	王威	王土 <small>帝王の土地といふ</small>	藁屋	我等 <small>梵語サリ僧家とて合掌作礼するをいふ</small>	圍	若狹 <small>國名</small>	若菜	和漢	
	こらち	こらひ	こらら	こらら	こらら	こらら	こらら	こらら	こらら

破子 <small>器</small>	惡	早稻	腋 <small>肘腋</small>	鬢 <small>俗よまげといふ</small>	湧 <small>水のこぼる</small>	横	蹄
和睦	脇	業	沸	黄	藁	二言	三言
破	我殿	鷲	事	篋 <small>絲をいれるもの</small>	梔		
若葉	割符	佗 <small>くさくさをいふ</small>	側	訣	柱	王	
こらご	こらご	こらご	こらご	こらご	こらご	こらご	こらご

黄葉園藏

か る りち にい
せせひあめ き さ こけやく わ

貧	胡臭	早田	倭國	倭厄	賄賂	黃芪	往古
こびり	こごが <small>病</small>	こさご	こごく	こやく	こわろ <small>まひあひのこ</small>	こごう <small>藥名</small>	こごご
慄慄	脇屋	和讚	我御前	分惹	和韻	横死	奥義
こびり	こごや <small>氏</small>	こさん	こごぜ	こけざ <small>菜</small>	こわん	こごう	こごぎ
渡御	喚	山葵	甲穂	和琴	王子	王畿	王畿
こせる	こめく	こさび <small>草</small>	こさか	こごん	こごうト	こごうき <small>畿内と云ふ同ト</small>	こごうき <small>都城に近き地をいふなり</small>
忘	奔	吾家	態	決	往時	決	往時
こごれ	こご	こご	こごご	こご	こごうト	こご	こごうト

三言

二

か る りち にい

文章假字用格卷二	嫩枝	我國	別路	十八女	割合	輪違	分別
立春の朝早く汲む水をとり	ころえ <small>木</small>	こがく <small>日本のこと</small>	ころんぢ	ころろ <small>氏</small>	ころあひ	ころあひ	こいごめ
歿	吾朝	若草	若苗	若菜	悪口	無別	脇盾
こごう	こごう <small>日本のこと</small>	ころくさ	ころかへ	ころむえ	ころくち	ころあひ	こいご <small>兵器</small>
殤	若君	若栗	嫩苗	若髮	醜語	無破	庚脚
こごう <small>早せと云ふこと</small>	こごぎ	こごり	ころかへ <small>草</small>	ころかみ	ころくち	ころあひ	こごあひ
若衆	若水	柔條	若人	若黨	虚俗	鰐口	鰐口
こごう	こごう	こごう	こごう	こごう	こごう	こごう <small>神社よりくる金鼓の理のり畧を俗語のあんまりと云ふ同ト</small>	こごう <small>神社よりくる金鼓</small>

四言

黄葉園藏

か けい さ き さ く う

文章假字用格卷二 (わ)	若男	就尾	脇指	俳優	器用 <small>かりうり</small> 雙 <small>たわら</small> の柄 <small>がら</small>	黄精	横産	往來
	五言	くしのと氏	くしのと兵	くしのと	くしのと	くしのと <small>薬名</small>	くしのと	くしのと
	和歌浦	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと <small>人名</small>	くしのと	くしのと
	紀州地名	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと
	壯年	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと
黄葉園藏	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	

うむら か つま け

主孫	往々	枕飯	童子	病	私	渡殿	我物
棟の異名	處々と同ト	くしのと	くしのと	病氣のこころなり	又唐弓とよみ綿をうつろのことなり	くしのと <small>宮</small>	くしのと
往年	横道	家人より主人を饗するをいつあり	厲	怙	吾柄	四月朔日	祭入
くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	恐るること	矢の根の名	今ハ綿貫とうけり	くしのと
横難	黄痺	鶯の異名	圓座	戰	纜	移居	腸熬
くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと	くしのと
王老	王孫	十二月	温袍	煩	綿弓	廣原海	綿花
鉄の一名	くしのと	くしのと	くしのと	吉よみ手足よみ	くしのと	くしのと	くしのと

(2) 四言

三

少容	綿帽子	蟠
渡舟	渡川	海原
渡守	煩	瘡
童位	咲種	笑具
玉鼻	假面 <small>神事上用たる猿田彦の</small>	伴還
往昔	健弱	潜
往生	玉城	萱
佛騰	鷲山	
意水	忘貝	

少容 こすか
 渡舟 こすかふね
 渡守 こすかもり
 童位 こすかゐら
 玉鼻 こすかのび
 往昔 こすかむかし
 往生 こすかむし
 佛騰 こすかあがり
 意水 こすかとい
 綿帽子 こすかぼうし
 渡川 こすかりがは
 煩 こすかいら
 咲種 こすかひざ
 假面 こすかめん
 健弱 こすかぢやく
 玉城 こすかぎやう
 鷲山 こすかのやま
 忘貝 こすかまがひ
 萱 こすかあし

四言 五言

四

分明	我立拙	若苗色
若紫	我大君	壯士
若公達	我物顔	私事
私物	煩敷	童姿
童遊	丑覇道	
黄檗山	往亡日	
玉昭君	汚穢不淨	

分明 こすかあきら
 若紫 こすかむらさ
 若公達 こすかきんた
 私物 こすかもの
 童遊 こすかあそび
 黄檗山 こすかわくさん
 玉昭君 こすかせうきん
 我立拙 こすかたがた
 我大君 こすかおほきみ
 我物顔 こすかものかほ
 煩敷 こすかいら
 丑覇道 こすかひのち
 往亡日 こすかまうり
 汚穢不淨 こすかよご
 若苗色 こすかあし
 壯士 こすかむし
 私事 こすかじ
 童姿 こすかあそび

六言

七言

文章假字用格卷二

黄葉園藏

若松原

伊勢國三重郡

海若

こゝづこのみ

海神

こゝづこのみ

海郷

海宮とて神代紀に見えり

話頭公案

禪家の詞

戰栗

こゝろさう

藁人

こゝろん

八言

十言

董殿上

董とて殿上とゆふ

梳飯饗應

梳飯已に見えり今も世のたより

和光同塵

こゝろどうじん

招禍

こゝろひとまねく

缺掖

こゝろあけのころも衣服

主事靡監

こゝろトめらいこと

帝王の御事の何ごとと監ことか

加部

一言

加

加架嘉迦伽可河何荷珂柯舸軻訶歌甘間

箇介清音賀

清濁二音

我俄蛾峨餓鵝雅濁音

二言

開

かい

雅意

風雅多意

海

うい

械

うい

解

注解

うい

害

物とて

戒

持戒

うい

楫

うい

棹

舟具

うい

權

舟具

剋

うい

改

うい

皆

うい

咳

がい

介

ざらふくすうやとて用る

うい

涯

がい

文章假字用格卷二

六

黄葉園藏

文章假字用格卷二 か	匙	飼 <small>鳥歌をいふ</small>	甲	膏	幸	高	講 <small>吳音こう</small>	教 <small>同上</small>	交 <small>吳音けう</small>
	貝	甲斐 <small>國名</small>	粥	豪	上	好	降 <small>同上</small>	巧 <small>同上</small>	効 <small>同上</small>
	蛭	峽 <small>山の間をいふ</small>	家事	合	神	格	肛 <small>同上</small>	江 <small>吳音こう</small>	技 <small>同上</small>
	數	穎 <small>稻の穂をいふ</small>	買	閤	號	考	迎 <small>漢音けい</small>	項 <small>同上</small>	孝 <small>同上</small>
	黄葉園藏								

杏 <small>吳音こう</small>	向 <small>漢音かう</small>	剛	浩	香 <small>香具</small>	替 <small>俗、握け字と用ゐるのり、謬より握け樹抄</small>	皮	側
耕	強 <small>同上</small>	康	皋	禱	穀	革 <small>つくり革と云</small>	傍
壘 <small>吳音らい</small>	更 <small>吳音かう</small>	糠	崗	毫	行 <small>金作りん</small>	顔	川 <small>まき水</small>
肴 <small>同けう</small>	亨 <small>同上</small>	仰 <small>漢音かう</small>	綱	告	郷	楫	河 <small>衆流の海に注ぐと云</small>

か
二言

六

れ へに とよつかとをりと

文章假字用格卷二 (か)	今頼病人をとり 乞食のこと	傍	通	抱	乾	家隆	雞頭樹 <small>俗ユリキチトシ</small>	歸	穉
		かこへ	かこへ	かこへ	かこく	かりう <small>人名</small>	かこて	かこり	かこり
	嘉例	片方	離支	嘉幸	燥	假居	翻	漂	復
	かこい	かこへ	かこえ	かこう	かこく	かりわ	かこす	かこる	かこり
	餉	歌道	殘廢篤	鯉	消渴	我折	加藤	解	回
	乾飯なり かれひ	詠歌の道なり かこう	かこえ	かつを	かこき	がをり	かこう <small>氏</small>	かこる	かこり
	王餘魚	乞索兒	不具の人を二片羽 のさるなり	被	加階	薰	假廬	楓	透
	かこい <small>魚</small>	かこわ		かこく	かこい	かをる	かりん	かこて	かこり

黄葉園藏

え い

合志	瓦	水苔	替	川邊	改悔	改補	三言		
肥後 郡名	かいら	かいら <small>川菜</small>	かいら <small>川菜</small>	かいら	かいら	かいら <small>あつた補</small>			
爲替	家法	黄草	河曲	鮪	海部	皆無			
かせ金なり	かえふ	かいか <small>今よりやんといふ</small>	かいら <small>伊勢郡名</small>	かいら <small>魚介の總名をいふ</small>	かいら	かいら			
川瀬	厠	河原	蝦蟇	換	咳氣	皆具			
川の浅瀬	かこや <small>今唾隠といふ</small>	かいら	かいら	かいら	かいら	かいら			
川合	皮籠	甲良	蛙	代	開基	馬の粧ひ全きを 皆具といふ			
越前郡名	かいら	かいら	かいら	かいら	かいら				

か二言 三言

七

文章假字用格卷二

か

黄葉園藏

高家 うき <small>飛驒 郷名</small>	嘉兆 うてう	家風 うふう	河内 ううち <small>國名</small>	懸緒 うけを <small>組緒といふも同ト</small>	蒲生 うまふ	神主 ううん <small>氏</small>	隔子 うらう	郷司 うらう <small>今の大庄屋のうら</small>
嘉名 うめい <small>よき名</small>	可愛 うあい	園 うん <small>うとむ</small>	冠 うかん	禪 うぜん <small>近江の郡名なり又氏もあり</small>	庚 うのえ <small>十幹の一</small>	柑子 うかん <small>密柑橘なり</small>	郷士 うらう	郷士 うらう
龜居 うめい	葛西 うさい <small>氏</small>	貯 うち <small>とたく</small>	甲賀 うか <small>近江 郡名</small>	家業 うげ <small>あり</small>	構 うまふ	加恩 うおん	考妣 うひ	講師 うらう
家財 うざひ	茶室 うちひ	甲田 うた <small>氏</small>	覓 うけひ	加慶 うけい	箇様 うやう	格子 うらう <small>父母の死後を稱して先考先妣といふ</small>		

高座 かうざ <small>くわの高座</small>	高位 かうい <small>外國の名</small>	交趾 かうち <small>外國の名</small>	更衣 かうい	家老 からう <small>家臣の長なり</small>	加納 かぬ <small>氏</small>	鐮 かか <small>器</small>	葛 かづ <small>蔓草</small>	加増 かぞ <small>今ハ株の増なり</small>
強氣 かうき	河野 かうの <small>氏</small>	麴 かうち	鼻麻 からえ <small>草</small>	金生 かぬ <small>筑前 郷名</small>	潜 かづ <small>水中をかくこと</small>	數 かぞ <small>かぞ</small>	算 かぞ <small>かぞ</small>	
孝子 かうし	香具 かうぐ <small>ナミコトクミ</small>	好惡 かうを	香爐 かうろ	管家 かんけ	金井 かふ <small>氏</small>	上総 かづ <small>國名</small>	鬘 かづ <small>花鬘のこと</small>	
好士 かうし	高下 かうげ <small>高きと卑きをいふ</small>	寄居虫 かうぶ <small>宿るといふ虫</small>	首 かうべ <small>あたまのこと</small>	漢字 かんと <small>唐土の文字</small>	唐輪 からま <small>小兒の髪を結ふ</small>	稱 かかふ	鐘鐺 かねい	

か三言

ハ

つれ たよかり ちとへり

蝙蝠	蝙蝠 <small>ちりり</small>	骨蓬	骨蓬 <small>水神</small>	替目	替目 <small>常のふらふら</small>
河傍	河傍 <small>うらそひ</small>	瓦屋	瓦屋 <small>うらや</small>	土器	土器 <small>うらけ</small>
川音	川音 <small>うらね</small>	鞞帶	鞞帶 <small>うらび</small>	樺燒	樺燒 <small>うらやき</small>
河筋	河筋 <small>うらぢ</small>	顔	顔 <small>うらむせ</small>	貌鳥	貌鳥 <small>鳥</small>
首途	首途 <small>うらぞ</small>	檝師	檝師 <small>うらぢ</small>	挾抄者	挾抄者 <small>舟人</small>
家長	家長 <small>うらぢ</small>	嘉定	嘉定 <small>六月十六日の儀</small>	狩襖	狩襖 <small>衣</small>
通路	通路 <small>うらぢ</small>	傍	傍 <small>うらぢ</small>	脇	脇 <small>うらぢ</small>
相語	相語 <small>うらぢ</small>	荷擔人	荷擔人 <small>うらぢ</small>	片戀	片戀 <small>うらぢ</small>
柵枝	柵枝 <small>うらぢ</small>	甲冑	甲冑 <small>うらぢ</small>	堅魚木	堅魚木 <small>うらぢ</small>
				餉	餉 <small>軋飯</small>
				疥疾	疥疾 <small>うらぢ</small>
				拘	拘 <small>うらぢ</small>
				蚊帳	蚊帳 <small>うらぢ</small>
				却	却 <small>うらぢ</small>
				川岸	川岸 <small>うらぢ</small>
				烏毛蟲	烏毛蟲 <small>虫</small>
				咎	咎 <small>常のふらふら</small>

え らか

謁仰	謁仰 <small>うらぢ</small>	恰好	恰好 <small>うらぢ</small>	合當	合當 <small>相應の義</small>
癩病	癩病 <small>うらぢ</small>	乞食	乞食 <small>うらぢ</small>	葛城	葛城 <small>大和</small>
必	必 <small>うらぢ</small>	悲	悲 <small>うらぢ</small>	唐様	唐様 <small>うらぢ</small>
連枷	連枷 <small>農具</small>	甘露寺	甘露寺 <small>うらぢ</small>	肴坊	肴坊 <small>うらぢ</small>
廣東	廣東 <small>唐土の地名</small>	神主	神主 <small>うらぢ</small>	感涙	感涙 <small>うらぢ</small>
感既	感既 <small>うらぢ</small>	勘考	勘考 <small>うらぢ</small>	考	考 <small>うらぢ</small>
諫奏	諫奏 <small>うらぢ</small>	閉窗	閉窗 <small>うらぢ</small>	艱勞	艱勞 <small>艱難</small>
感應	感應 <small>うらぢ</small>	漢音	漢音 <small>うらぢ</small>	艱勞	艱勞 <small>艱難</small>
寒風	寒風 <small>うらぢ</small>	五調	五調 <small>うらぢ</small>	岩疊	岩疊 <small>うらぢ</small>
				燂菜	燂菜 <small>うらぢ</small>
				堪能	堪能 <small>物の上手</small>
				干戈	干戈 <small>うらぢ</small>
				勘當	勘當 <small>うらぢ</small>
				神事	神事 <small>うらぢ</small>
				干歌	干歌 <small>菜</small>
				唐織	唐織 <small>うらぢ</small>
				渴命	渴命 <small>うらぢ</small>
				合體	合體 <small>うらぢ</small>

文章假字用格卷二 (か)

黄葉園蔵

甘草 かんそう 感悦 かんえつ 肝要 かんよう 肝心 かんしん

標 ひょう 交友 かうゆう 高樓 かうろう 芽 め

馨 かうや 川骨 かうわね 強兵 かうへい 高直 かうちき

強力 かうりき 柑類 かうるい 幸若 かうじやく 近世舞曲の家
越前住す

孝行 かうかう 鈎匙 かうぎ 孝道 かうどう 強盜 かうたう

草堂 かうどう 京師一條行願寺
をとり

高僧 かうそう 止野 ちの 香臺 かうたい 號令 かうれい

香圖 かうず 耕農 かうのう 孝養 かうよう 青藥 かうやく

旬言 かうげん 耕業 かうげい 郊原 かうげん 豪傑 かうけつ

好物 かうぶつ 蒙 かう 被 かう 冠 かう

告文 かうぶん 交易 かうぎ 孝悌 かうてい 香典 かうでん

視告朔 かうさく 視の字をよまざるが
讀法なり

強勇 かうゆう 幸甚 かうしん 江州 かうしゅう 庚申 かうしん

香薷 かうりゆ 幸便 かうべん 拷問 かうもん 蝙蝠 かうりり

強勢 かうせい 講説 かうせつ 行成 かうせい 世尊寺家能書
世一権蹟といふ

香煎 かうせん 陰比 かうひ 万葉に見えたりくま
とつを延てりなり

學頭 がくとう 嘉會 かかい 學校 がくこう 學寮 がくれう

結果 けつこ 學才 がくさい 隔日 かくにち 鮓 まら

文章假字用格卷二 (か) 黄葉園藏

陽燄 うげらう 懸香 うけこう 蜉蝣 うげらう 夕落 うけおち

亡命 うけもち 掛帯 うけおび 元興寺 ごこうじ 甲乙 うけおつ

夾纈 うけけら 笠居 うさき 蜻蛉 うさぎ 書添 うきそ

風折 うざをり 笠居 うさき 蜻蛉 うさぎ 書添 うきそ

佳境 うきやう 攪餅 うきもち 粥杖 うげづえ 膳夫 うけで

霹靂 うきおつ 鬢 うきすげ 柏原 うげら 膳夫 うけで

貝桶 うひをけ 申香 うひかう 妙 うみろく 貝原 うひがら

冬瓜 うもろうり 横首杖 うせづえ 鹿杖 うせづえ 無甲斐 うひが

春日部 うすぐべ 鉢 うんがひ 鉢 うんがひ 鉢 うんがひ

五言

戒重 ういぢゆう 海中 ういちゆう 開帳 ういちゆう

海老尾 ういらうび 改宗 うかいしゆう 戒行 うけぎやう

戒名 うけな 改宗 うかいしゆう 海上 うけがう

芥錯 ういさく 瓦葺 うわづき 女青 ういねせい

文章假字用格 卷二 (か) 黄葉園藏

か 四言

十二

後見の人又いせ話すことども云今太刀取をりいひけり

瓦と葺の家をり古く神宮の忌詞いふ寺と死葺といふ

膳部のおく古く飲饌といふ木葉をとり器とす

今せよいふまがりぞめのことなり

古く女の粧ひなり玉なまきの類なり

小兒をねんよい詞なり

鳥帽子の名

讃岐郷名

雷の落す

髪筋あり

伊賀阿拜郡あり

貝合の貝を入る桶

海螺層ありつよのへともいふ

うきまのつゝえん鐘木杖ともいふ

川向

くわむゑひ

夏神樂は川の上へ神を
立ち棚をくさしてすゑ

河伯

くわのわく

川柳

くわやぶら

河社

くわやうら

氷揚

くわやぶら

褰

くわいごらも

蝶

くわいひご

顔容

くわくごら

頰

くわあゝ

顧

くわりご

擲倒

くわりごら

不肯

くわんせひ

和唱

くわいご

勾引

くわいごひ

看督長

くわどのもご

檢非違使の別當より
附屬をくわりのあり

徒涉

くわいごら

故

くわいごら

薰風

くわいごら

抱置

くわいご

拘帶

くわいごら

連坐

くわいごら

執掌

くわいごら

駕輿丁

くわいごら

傍目

くわいごら

参差

くわいごら

方違

くわいごら

蝸牛

くわいごら

片田舎

くわいごら

獨念

くわいごら

片庇

くわいごら

鯉節

くわいごら

蟻螻

くわいごら

纏頭

くわいごら

鯨音

くわいごら

合掌

くわいごら

鐘聲

くわいごら

勘定

くわいごら

木棹

くわいごら

草麻

くわいごら

勘定

くわいごら

乾姜

くわいごら

感入

くわいごら

感狀

くわいごら

巖嶂

くわいごら

強盛

くわいごら

閑寂

くわいごら

看病

くわいごら

香爐峰

くわいごら

髮鉢

くわいごら

文章假字用格卷二 ①

定考と書てくさまうくわいごらと唱へ来るを故實とハ
六位已上の加階はあつて今見えり

黄葉園藏

高聴 台聴ニ同ト 高卓 器 頭殿

剛者 つよき人ニ 高官 膏育 灸穴の名

高名 孝順 孝行弟順をいふ 好色

高聲 講釋 庚申會 庚申待ニ同ト

柑子草 夏禹王 人名 神樂岡

格外 方外といふニ同ト 學匠 學問の師匠ニ 學生 今書生といふ學問をりぬをいふ

鵝口瘡 小兒の病ニ 雜加 武具 飾馬

飾繩 笠標 笠符 上ニ同ト

書傳 龜甲 上總 國名

十月 鬢 餌飯 雑炊なり

香推瀉 筑前指屋郡の地名 貝覆 貝合 まごい貝合せをいふ
女兒の戲まじり

貝合 掃部寮 大内ニあり 主計寮 上ニ同ト

數多 數多 うびおや

六言

戒定慧 佛語ニ 戒壇堂 吳茱萸 木

賣子木 木 更々 渡川

河原院 京師六條坊門の南
万里の小路ニあり 瓦硯

菊 まごいの和名あり 賽 草 反忠

文章假字用格卷二 か 黄葉園藏

街談巷説

往来の人の風聞のたがひ

借老同穴

突りのよきことを

饗饋

和名抄に半熟飯と注せり

千珠満珠

久松のまんじゆ

旋頭歌

赤八家集躬恒集かきよきよき

亢龍之悔

物ごと盈てハ久しう

娥皇女英

堯の二女の名

鎌足大臣

人名

合卺夕

婚姻の夕を以合卺ハ酒盃の名

攝原都

神武天皇の宮地なり

九言

迦陵嚩伽鳥

經説に見ゆ唐に妙色鳥と翻せり

十言

鳧脚鶴脰

うものあつもの

莊子に出たり生とつことを

十一言

十二言

十四言

臨渴掘井

うづよのどとそおをり

喻

俗に軍を見て矢をたると

干將莫耶劍

えんまやうまくやがつま

干將莫耶ハ唐土の鍛冶の名

入郷從郷

かうよりりていかうよあこが

與部

一言

與豫餘用容欲譽庸遙

二言

夜

よハ

攀

よらぐ

用

よう

癰

腫物の名 病

宵

よヒ

初夜

よヒ

たゞ夜をよ

三言

萬

よろろ

甲

よるヒ

鎧

よろヒ

銚

よろヒ

齡

年齢 よろヒ

結婚

よるヒ

夜這

よるヒ

餘流

よろろ

寄子

よりと

餘類

よるゐ

節折

よまをり

夜盜

公事なり委し、式江次第ホよ出さる

弱

よき

横川

よるゐ

輿臺

賤者の稱

夜盜

盗人の

餘黨

よらう

準

よるゑ

四十

よそぢ

穢

舟をよそふ

儀

よまひ

依

よりて

囚

よりて

仍

よりて

夜誥

よらめ

米津

よるづ

餘荷

よかひ

用意

よらひ

容易

たやひま

用土

よらど

庸愚

おろおろの

容儀

人の

用事

よらじ

餘慶

よけい

庸愚

おろおろの

餘計

よけい

餘風

よらう

横地

よこぢ

餘商

よえい

餘烟

よえん

餘殃

よあや

周易は出積不善の家

よあや

餘命

よめい

餘習

よあふ

文章假字用格卷二

よ

黄葉園藏

二言

三言

十七

餘情

よせい

夜居

よるゑ

四言

よ三言

四言

十八

善哉

よいか

蓬逆

よらひ

産

よらひ

啖

よらひ

夜通

よとほ

縷

よりの

綫

よりの

桿棒

よりの

寄添

よりの

寄親

よりの

依藤

よりの

寄合

よりの

粧

よそひ

飾整

よそひ

贈

よつち

容貌

よつち

用人

ようえ

容體

ようい

庸才

ようい

用心

ようい

用水

ようすい

抑留

ようりゅう

餘光

ようりゅう

欲界

ようりゅう

佛説

佛説よせり

翌日

よつち

夜廻

よまわり

行夜人

よまわり

椀

よこぼち

臥杵

よこぼち

横大路

よこぼち

横笛

よこぼち

箠

よこぼち

餘興

よこぼち

婚

よこぼち

吉岡

よこぼち

芳澤

よさざい

善澄

よさざい

逢生

よもぎ

五言

甲蟲

こうちゅう

甲蟲三百六十種を長

とん介蟲のことなり

白芷

こうちゅう

草

流星

りゅうせい

鯁

よらひ

竹をりて魚を貫く

俗より目刺のよらひ

夜闌

よらひ

薏苡仁

よらひ

浴佛會

よらひ

よらひ

欲情

よこぼち

餘間出居

よこぼち

横

よこぼち

よこぼち

陌

よこぼち

四疊半

よこぼち

東山殿書院より四疊半あり

同仁齋より後世此より

文章假字用格卷二

黄葉園藏

蘇

よきごと

蘇生くもり死く又
生きうきとをいひ

蘇息

上同ト

よきごと

冥反

上同ト

よきごと

六言

四五百森

よみかのみり
伊勢飯野郡よみり

著甲始

よろひきぞめ

解手刀

よろひとわ志
馬手さしともし入小刀

函人

具足師

よろひつり

夜御寝

よりのおき
天子の御寝所をいひ

早世

よきをいひ
早く死ぬるをいひ

世風俗

よのわらふ志

吉井嶽

よきつりけ

肥前高来郡土人
筑紫富士といひ

七言

丁渡

よぼりのこし志

越中

餘五將軍

よき志をいひ
平繁盛の男維茂のこと

せ志しや

葭原雀

よき志をいひ

倚懸目結

よき志をいひ
佐々木家の紋へ今いひ四ツ目といひ

八言

節折藏人

よき志をいひ

節折ハ公事
藏人の官名

九言

世變風移

よき志をいひ

世のありさま昔と今の同ト
かたは風俗もいひ

多部

一言

九 二言

二十

九 濁音

多 哆 丹 他 陀 稻 當 黨 儂 囊

清音

太 陀 馱

清濁音 娜

二言

體

たい

大

たい

題

たい

滯

たい

退

たい

臺

たい

銃架

鉄炮の

たい

太

たい

胎

たい

對

たい

代

たい

泰

たい

妙

たひ

堪

たひ

拷

たひ

鶴

たづ

堂

たう

道

たう

導

たう

桃

たう

陶

たう

當

たう

湯

たう

唐

たう

嶋

たう

黨

たう

稻

たう

刀

たう

到

たう

倒

たう

禱

たう

討

たう

盜

たう

塘

たう

棠

たう

糖

たう

鏞

たう

打

吳音

たう

棹

吳音

たう

幢

吳音

たう

臺

たう

萄

たう

田井

田舎

たう

塔

たう

荅

たう

納

吳音

たう

絶

たえ

鯛

たひ

平魚

たひ

文章假字用格卷二 ㊂

黄葉園藏

か 己を己 ち とに へ

儀	俎馬	假令	他方	大事	大輔	内裏	大意	三言
たごら	たごま <small>國名</small>	たとひ	たごう	たいご	たご <small>官</small>	だいら	たいい	
橈	丹比	諭	戲氣	舵	醍醐	大豆	提婆	二言
たご <small>たごも たごむ たごる たごく</small>	たごひ <small>氏</small>	たとふ	たごけ	たい <small>船具</small>	たい <small>山城</small>	だいづ <small>穀</small>	だいて	三言
他流	譬	淫	對	對座	逮夜	對治		
たごう	たとふ <small>たとふく たごひ</small>	たごけ	たごい	たいざ	たいや <small>忌日の前夜</small>	たいぢ		
他界	手折	起居	丹波	臺子	大儀	當麻	退治	廿一
たかい	たをり	たちお	たよ <small>國名</small>	たいん	たいご	たいま <small>大和 郷名</small>	たいぢ	

ま くの う ら つ

匹	多能	導師	專	桃李	道路	鑪	忒	由川
たぐひ	たのう	たうち	たうめ	たう <small>木</small>	たうろ	たづ <small>器</small>	たぐふ	たが <small>氏</small>
賜	比	道士	專女	踏歌	唐土	多羅尾	違	高雄
たまひ	たぐひ	たうち <small>仙術</small>	たうめ	たう <small>正月公事</small>	たうど	たら <small>氏</small>	たぐふ <small>地名</small>	たぐを <small>地名</small>
給	類	唐紙	道具	湯治	太郎	尋	高井	高井
たまふ	たぐひ	たうち	たうぐ <small>狐の称なり伊勢の書 専女三狐神あり</small>	たうぢ	たらう	たづぬ	たうお <small>氏</small>	たうお <small>氏</small>
玉江	儕	當寺	當時	當歸	道理	盥	韁	差
たまえ <small>地名</small>	たぐひ	たうと	たうち	たうさ	たうご	たらひ <small>器</small>	たづ <small>馬具</small>	たぐふ

文章假字用格卷二 ㊦

黄葉園藏

(九)

廿二

多藝 たげい 竹井 たけい氏 高生 たけい武藏郷名 答話 たへこ

塔婆 たつた 倒 たふ 斃 たづなれ 峠 たげ

絶 たえ 間斷 たえま 不絶 たえび 太宰 たざい氏

高家 たかさ信濃郷名 田代 たしろ肥前基肄郡の地名 平 たひら姓 多勢 たせい

多少 たせう

四言

大陰 たいん月 大法 たふ 顔敗 たご 太平 たいへい

胎毒 たいどく 滞留 たいりゅう 大黃 たいかう薬 太槩 たいがい

大剛 たいかう 題号 たいごう 太閤 たいかう 胎内 たいない

大綱 たいかう 體用 たいよう 大唐 たいたう 胎内 たいない

大老 たいらう 對屋 たいのや 大音 たいおん

大恩 たいおん 退屈 たいくつ 對揚 たいやう 大音 たいおん

大陽 たいやう日 大望 たいまう 對揚 たいやう 松明 たいまう

炬火 たいまろ 怠慢 たいまん 對揚 たいやう 大功 たいこう

大黒 たいくろく神名 太悦 たいえつ 大要 たいやう 大抵 たいてい

大體 たいてい 大壯 たいさう 代参 たいさん 對面 たいめん

太守 たいさう 太守の親王と稱 さうとところなり 大人 たいじん 嫖客 たいせう色町の白ん

大物 たいぶつ大材と大物とらう 大數 たいすう 風流士 たうれを 狂夫 たうれを

文章假字用格卷二 (九) 黄葉園藏

宮女の居るところ一ニまへ東西をせり

對揚の字書經に見えり

攝政関白の父なる人の稱なり

戯

たつたれ
たつたれ

妄語

たごと

妙

たご

酩酊

たご

稅

たちから

柔

たをやう

婦人

たをやめ

他領

たをやう

婀娜

たをやう

耕

たご

鷹飼

たご

高潮

たご

篁

たご

湛

たご

稱

たご

戰

たご

互

たご

塔頭

たご

田令

たご

女貞

たご

漂

たご

隼

たご

立水

たご

多羅葉

たご

脱肛

たご

生親男

たご

垂乳女

たご

談合

たご

手端

たご

檀方

たご

檀越

たご

唐音

たご

探幽

たご

短命

たご

短刀

たご

短才

たご

淡海

たご

探題

たご

短刀

たご

唐音

たご

斷罪

たご

短命

たご

丹誠

たご

唐音

たご

鴿

たご

到頭

たご

黨類

たご

道德

たご

當流

たご

桃林

たご

黨類

たご

當惑

たご

盜汗

たご

道號

たご

當用

たご

當代

たご

唐僧

たご

盜賊

たご

唐蠟

たご

蟪蛄

たご

道風

たご

道服

たご

唐蠟

たご

當國

たご

當色

たご

道服

たご

投網

たご

擯鼻

たご

當日

たご

唐人

たご

當世

たご

唐墨

たご

文章假字用格卷二

黄葉園藏

馬上あぶら着て塵埃を防ぐ服なり

至極の義禪録より出

水を流して出て流る水なり

大税を倉に備置て春耕の時に出してかき耕田の力とするゆゑに田力と云ふ

あつ男と云ふて女をの稱なり

木

木

う

むら つか をり へ

樂 たのあひ
 比 たくら
 副 たご
 貯 たくり

濁醪 たくらう
 手扶 たくら
 給 たま
 玉川 たまがわ

世は六玉川と云ふ多く
 わりてりよことあり
 書簡 たまづき
 意苴 たまぐ
 玉緒 たまのを
命のこと

武石 たけいし
 武市 たけいち
 竹原 たけはら
 竹枝 たけつえ

蘭 たけがわ
 酣 たけがわ
 答拜 たふまひ
 貴 たふとま

倒 たふ
 帶刀 たてがき
 他行 たご
 他境 たご

猶豫不定 たご
 溜息 ためいき
 猶豫 たご
 他生 たご

他宗 たご

五言

大道寺 だいでう
 舌聽 たいちやう
 大腸 だいちやう
六腑の一

大僧都 だいにそうづ
 大願 だいにがん
 代官 だいにくわん

大饗 だいきやう
三公に任むる人節會の後公卿を
招き賀を行ふを大饗といふ
 天名 だいてい

大將 だいてい
 帝釋 たいてい
 大乘 だいてい
佛法大乘小乗の別あり

譬喻哥 たご
 輒 たご
 堪忍 たご

高雄山 たご
山城葛野郡に在
 疊紙 たご
 鷹匠 たご

太郎月 たご
正月の異名
 誕生 たご
 短尺 たご

文章假字用格卷二 九
 黄葉園藏

尺ハ尺素の義なり
短冊ともうけり

當住

たうぢらう

蕃椒

たうがら志

世よりれを幸の神とも
道陸神ともりり

託生

たくまらう

玉祖

たまのおや
河内 郷名

塔澤

たのさい

大和十帝郡あり又
談嶺龍嶽ともり

五言 六言

廿五

彈正

たんぢらう
官名

道場

たうぢらう

白芥

たうがら志

堂上

たうまらう

珠纒

たまつら

篋

たけのうへ

相模足柄下郡温泉
あり七湯の一

多武峯

たのさね

殪死

たつれ志

古ハ君臣ともよ玉
貫きうけあうなり

指紳家を称してとり昇殿
ゆきれば人をさうり

桃印符

たういんふ
五月五日

切利天

たうてん

道祖神

たうそじん

六言

太一星

たいいつせい
北極の大星

内教坊

たいけうぼう

胎藏界

たいざうかい
大日

大嘗會

たいまらうえ

題目講

たいめいこう
日蓮宗

狂心

たうじん

寶位

たうくらわ

陶淵明

たうえんめい
人名

大般若

たいんげん

太公望

たいこうぼう
人名

密宗よりつとら
地より陰なり

天子即位の歳
行ふ公事なり

大成殿

たいせいでん

徘徊

たうまらわ

稻麻竹葦

たうまらわ
衆多のひかり

道成寺

たうじやうじ
紀伊日高郡あり

大陽草

たいやうそう
黄精の一名

大極殿

たいごくでん
禁中の殿名

大慈大悲

たいじだいひ

太常旗

たいじやうき
天子の旗を日月を畫く

文宣王の聖像を
祀つともあり

参差

たうしん

桃花坊

たうはぼう
京都一條の異名

七言

文章假字用格卷二 (九)

黄葉園藏

①六言 七言 八言

廿六

大燈國師

だいとうこくし 人名

大僧正

だいそうじ 僧官

大音聲

だいおんせう

大明日

だいあし 暦の下段より大吉日なり

大明竹

だいめうたけ

業平竹ともいひ幹ハ雄竹
として葉ハ雌竹なり

大織冠

たいあはらこころん 人名
鎌足公をせよ大織冠といふ

高千穂嶺

たかちほのね 日向宮崎郡よりあり

箏刀

そうたが 元服の理髪よりたがといふ

棚無小舟

たななをぶね

八言

大恩教主

だいおんけうしゅ 釈尊をいふ

大政官

だいせい官

多田満仲

たのまんちゆう 人名

丹頂鶴

たんちゆうのつ 鳥

端坐合掌

たんざがてあやう

鎮竜祭

たまきりまつり 七月中の寅の日に行ふ公事なり

打成一片

たてあはらうりつせん 餘念あはれの義なり

九言

大海一滴

たいおのつりてき 譬

當麻練供養

たいまのねりくやう

大倉一粒

たいくらうのいちりゅう 譬

籜

笋の皮なり

たむかしのうらひ

交掌

たかごころをまへ

丹花唇

たんくわのくちびり

數他珍寶

たのうらをくま 佛家にて譬論なり

失魂

たまをひをうまひ

十言

十二言

短兵急接

たんへいさつせつ

螻螂遮車

らうらうくるまをさきぎる

其任にたぎるの
喩なり

文章假字用格卷二 乙

廿七 黄葉園藏

禮部

一言

禮例戾黎連聯憐

二言

禮

まゝい

例

まゝい

冷

まゝい

令

まゝい

零

まゝい

厲

まゝい

靈

まゝい

黎

まゝい

醴

まゝい

麗

まゝい

鄺

まゝい

鈴

まゝい

寮

まゝう

寮

寮

料

まゝう

僚

まゝう

燎

まゝう

療

まゝう

繚

まゝう

僚

まゝう

レ

了

まゝう

聊

まゝう

蓼

まゝう

獵

まゝう

三言

レ

伶利

まゝり

荔枝

まゝい

榊子

まゝん

療治

まゝり

料理

まゝう

聊爾

まゝう

聊示

まゝう

料紙

まゝう

獵師

まゝん

四言

靈牌

まゝい

靈寶

まゝい

靈廟

まゝい

禮樂

まゝい

禮用

まゝい

零落

まゝい

羚羊

まゝい

黎民

まゝい

文章假字用格卷二

黄葉園藏

氏百姓のこと

卒尔とて同一ト

窓のうらま

官舎大學寮大炊寮
に禁中あり

佛具

靈神

まのたま

伶人

まのたま

伶倫とリ人始めて笛を造るよつて樂人を伶人とリ

冷泉

まのせ

靈瑞

まのずか

烈女

まのぢよ

連陰

まのりん

蓮房

まのぼう

簾臺

まのたい

連翹

まのけう

連日

まのぢつ

遼東

まのりやう

療養

まのりやう

了簡

まのけん

料簡

まのけん

料足

まのりやく

寮舎

まのさや

歴代

まのきだい

歴葉

まのきえふ

獠者

まのらう

寮舎

まのさや

歴代

まのきだい

歴葉

まのきえふ

獠者

まのらう

五言

例幣使

まのいはい

伊勢官幣使なり中古断絶後光明院のころ又絶

靈場

まのいぢやう

例證

まのいぢやう

禮讓

まのいぢやう

禮狀

まのいぢやう

簾中

まのちゆう

蓮臺野

まのたいの

連名

まのな

簾外

まのぐわい

戀情

まのこゝろ

練鵲

まのれんじやく

料理人

まのりやうじん

戀情

まのこゝろ

練鵲

まのれんじやく

六言

羚羊角

まのりやうかく

麗景殿

まのけいけん

禁中綾綺殿の北より

靈照女

まのせいぢよ

連理枝

まのれんりぢ

練磨功

まのれんまこう

連錢草

まのむせんそう

連理枝

まのれんりぢ

練磨功

まのれんまこう

七言

零陵香

まのりやうかう

寮御馬

まのりやうのおんうま

文章假字用格卷二

二

黄葉園藏

了簡違

まうけんちぢひ

伶人舞

伶人といふ樂人のこと
まの志人のまひ

八言

遼東豕

まうとうのなめと

世にあまねくあつたを我の
珍しきやうと思ふことの喻なり

曾部

一言

そ

曾層僧贈蕪所泝祚且祖則宗諸罇

清音 鋤叙

增憎俗賊茹序存

濁音

二言

素意

そい

側

そバ

蛆

山の側をいふ
そバ

赭

あうこをいふ
そバ

奏

そう

總

そう

宗

そう

曾

そう

送

そう

叢

そう

叟

そう

宋

そう

走

そう

崇

そう

僧

出家のこと
そう

贈

そう

文章假字用格卷二

三十 黄葉園藏

うそい

増 ぞう
 窓 ぞう 漢音
 雙 ぞう 漢音
 添 ぞう ぞう
 副 ぞう

揃 ぞう
 妾 ぞう
 副 ぞう
 祖廟 ぞう 先祖の墓所

卒都婆 ぞう
 度流 ぞう 萬葉集よりぞう
 蘇甲 ぞう 讚岐 郷名
 十河 ぞう 氏

具 ぞう
 尊意 ぞう
 増補 ぞう
 湊理 ぞう 層と肉の間

曾子 ぞう 人名
 園生 ぞう
 苑圃 ぞう
 即位 ぞう

即事 ぞう
 即時 ぞう
 粘飯 ぞう
 底意 ぞう

殂薨 ぞう 死
 鹿菜 ぞう
 麋相 ぞう
 疎遠 ぞう とひ

聳 ぞう そびえ
 蘓生 ぞう
 蕪生 ぞう

歌 ぞう
 時 ぞう
 傍杖 ぞう
 諷歌 ぞう

虚言 ぞう 古今集の序に虚言あり
 尊拜 ぞう
 夫故 ぞう
 損 ぞう

損亡 ぞう
 尊號 ぞう
 尊方 ぞう 人名
 尊骸 ぞう

尊容 ぞう
 尊荅 ぞう
 尊體 ぞう
 損料 ぞう

文章假字用格卷二 七

黄葉園藏

七 二言 三言

三十

尊崇 そんそう 損益 そんえき 尊像 そんざう 尊命 そんめい

存命 ぞんめい 尊者 そんじや 尊圓 そんゑん 雙方 そりょう

僧房 そうぼう 宗廟 そうぼう 葱嶺 そうりやう 僧堂 そうだう

滄海 そうかい 贈答 そうたふ 總體 そうたい 僧堂 そうだう

僧俗 そうぞく 叢林 そうりん 總樣 そうやう

崇敬 そうけい 増減 そうげん 増益 そうえき 聰明 そうめい

素懷 そくわい 疎濶 そくくわく 即答 そくたふ 東帶 とうたい

奏 そう 續飯 そくはん 息女 そくぢよ 族類 ぞくるい

素懷 そくわい 疎濶 そくくわく 即答 そくたふ 東帶 とうたい

俗體 ぞくたい 族黨 ぞくとう 息災 そくさい 即妙 そくめう

俗人 ぞくじん 即日 そくじつ 尺聲 そくせい 即妙 そくめう

拙河 そつまがひ 添上 そりやう 若干 そご 毀 そい

害 そご 弊 そご 様 そご 訴訟 そご

祖師堂 そしだう 訴狀 そじやう 横陳 よこぢん 副臥 ふし

五言

副車 ふしや 觚稜 こりやう 外郭 げいかく

存外 ぞんがい 尊敬 そんけい 存生 ぞんじやう

文章假字用格卷 もんぢやうがしやうよウかく 黄葉園藏 わうやうゑんざう

山の名天竺雪山の北
無熱地の南より

寺院の一名僧の
聚より

諸國より

天子へ申上り

字音の平色の外
上去入とリ

七四言 五言 六言

三十二

増長

ぞうちやう

總領

ぞうちやう

曾祖母

ぞうそふが

總名

ぞうみやう

宗匠

ぞうみやう

物師範ものしり今ハ和哥連能家いまはわがしりぞのり

僧正

そうじやう

即興

そくきやう

俗名

ぞくみやう

俗姓

ぞくみやう

添上

そふの和州郡名

無底意

そといあ

底筒男

そとつと攝務佳吉の座

蕪民書札

そくみやう

びり行脚の修験と

六言

衣通姫

そとつらひめ

允恭天皇の妃和歌三神の一玉津島明神

十河額

そくみやう

十河一存十河一存が頭髮より

卒中風

そくみやう

宗祇法師

そくみやう

袖岡山

そでみやう

伊勢飯野郡伊勢飯野郡あり土人阿坂山といふ

袖几帳

そでみやう

袖袖で顔顔ををううららひひかりかり枕枕の草紙の草紙よよみみええららり

七言

存亡死生

そんぶつしせい

蘇迷盧山

そあいの須弥山のことのやま経説より

八言

尊圓親王

そんゑんしんじやう

青蓮院十八世書法を世尊寺行尹世尊寺行尹に受く

素盞烏尊

そのの神名をのこと

蕪民将来

そんちやうらい

祇園の末社なり

九言

尊丈某

そんぢやうそんぢやう

文章假字用格卷二 七言 八言 九言

三十三 黄葉園藏

む り む り む

て ろ つ か ど む こ ふ く う

都部

一言

つづ

都通追兔菟鬪屠

清音

豆逗途圖徒

清濁二音

頭濁音

二言

退

ついで

痛

つう

築

つさ

節

つゑ

唾

津液より

つひ

堆

つお

辻

和字十字街をとり

つゑ

遂

つひ

石路

草

追

つお

旋毛

馬毛のつむぎ

つゑ

終

つひ

通

つう

對

つお

杖

つゑ

三言

築地

宮垣

壺井

河内地名

仕

主君よ

遣

つゑ

躑躅

木

頭痛

病

續

つゑ

次序

ついで

擇食

女の

つり

會

つひ

事

父母よ

つゑ

綴

つゑ

筒井

氏

鼓

樂器

筑城

豊前郡名

膝

つゑ

集

つゑ

使

つゑ

襪

つゑ

聯綿

つゑ

通路

つゑ

墮栗花

婦人髪をとり

支

つゑ

都合

つゑ

傳

つゑ

葛藟

州

都筑

氏

文章假字用格卷二

黄葉園藏

まきけ ま く か うむらねつ ともか 32 ちそ い ひよ く わ

唐音蘭語を知つて後此の情をあらわむる役なり
鬼やらのをり十二月晦日の公事なり

三言 四言

三十四

頭風	つらう <small>病</small>	追補	つらふ	追加	つかり	追儼	つらふ
遠	つひよ	追思	つらふ	案	つくゑ	机	つくゑ
費	つひゆ						

四言

啄	ついでむ	築牆	ついでさ	明日	ついたらち
衝立	ついでて	築牆	ついでち		

兵	ついの	甲士	ついの	培	つらふ
鶴澤	つらう	塚原	つらう	徒然	つらう

戊	つらのえ	釣竿	つらう	彈	つらう
良人	つらふ	恒岡	つらう	恒川	つらう

支頭	つらふ	礫塔	つらふ	通用	つらう
通例	つらふ	痛風	つらう	追放	つらう

追補使	つらふ	追悼	つらう	追啓	つらう
追風	つらう	堆朱	つらう	堆漆	つらう

追薦	つらふ	繕	つらう	蹲居	つらう
椽棒	つらふ	償	つらう	蹄躡	つらう

蹴然	つらう	蹶	つらう	躓	つらう
試金石	つらう	辻番	つらう	颯	つらう

文章假字用格卷二

黄葉園藏

五言 六言 七言

三十六

通天橋 つうてんけう

京師東福寺の境内あり

妻戀草 つまこひぐさ

紅葉

黄楊小櫛 つげのをぎ

附書院 つけあやん

月桂 つきのうら

月出汐 つきのでまや

月鼠 つきのねずみ

經論に出る譬喩の言あり

月水 つきのさけり

服従 つきまごころ

露命 つゆのいのち

乗敵 つひえよの

七言

壺碑 つぼのいし

奥あり有

頭北面西 つづみめんさい

如來涅槃の牀坐せり

蛸螻 つしぐらうし

七八月のとろろ蟻の蟻なり

白英 つぶこのひね

艸

月人壯 つきひとさか

万葉集に見ゆ月のこと月人のうらうらも桂男ともなり

八言

兵部省 つひりのつらさ

官名

謹言 つまんでまうら

對灯燈 つかめちやうもん

白顔馬 つくひのうま

九言

傳承 つくうけたまわ

十一言

夙興夜寐 つくよおさよあよいね

朝早く起きて夜おそくいねを勤まらむこと

文章假字用格卷二の八言 九言 十一言

三七 黄葉園藏

彌部

一言

ね 彌年 尼泥 涅 佞涅

二言

佞

ねい

鎔 錯

ねぢ鉄炮の眞心

根尾

ねを氏

根津

ねづ氏

年

ねん

饒

ねう

尿

ねう漢音でう

三言

寢入

ねいり

根芋

ねいも

重問

ねどひ

紵

ねぢ

願

ねがひねがひふ

狙

ねらふ

寝起

ねおき

睡

ねむるねむる

眠

ねづ

舐

ねづかろん

掘

ねこぶ

鼠

ねず鼠

宿水

ねみ

根占

ねぶめ

寢冷

ねびえ病

四言

佞辨

ねいべん

佞奸

ねいえ

佞人

ねいぎ

練塀

ねりべい

根尊

ねねか

寢忘

ねぼれ

熱湯

ねつそう

年頭

ねとう

年號

ねんごう

年齢

ねんまい

年内

ねんか

年來

ねんらい

年功

ねんこう

鏡鉢

ねうもち

饒舌

ねうせつ

根合

ねあわせ

勞

ねがらふ

文章假字用格卷二 (ね)

黄葉園藏

首蒲の根の長きを
合せ鬮すをよ

今根かりとも根びき
ともとり

俗に根の字を
うくる和字なり

今根かりとも根びき
ともとり

俗に根の字を
うくる和字なり

今根かりとも根びき
ともとり

俗に根の字を
うくる和字なり

今根かりとも根びき
ともとり

俗に根の字を
うくる和字なり

五言

涅槃像

ねんざう

佞人

ねぢげびと

練供養

ねりごやう

當ノ四月十四日

願

ねがひ

願書

ねがひがき

熱病

ねつびやう

念入

ねんいり

念遣

ねんつゝ

念願

ねんごん

子亥神

泉茹塚あり

ねわのくこ

鼠走

ねずまをり

折より屋中へ結ひ附るものなり

鼠色

ねびいろ

六言

根問葉問ねんごひ年行事

ねんごひ

七言

年八禮

元日八朔の礼をとう

ねんをのよめ

年季奉公

ねんきりうごう

梗

ねびのこ

八言

年々歳々

ねんねん

念願届

ねんごん

念佛三昧

ねんぶつさんまい

九言

十言

年中行事

ねんちゆうじ

念々称名

ねんねん

文章假字用格卷二 七八九十言

三十九 黄葉園藏

奈部

一言

奈南難儺那娜乃

二言

内

かい

繩

かえ

直

か

尚

か

猶

か

苗

か

秧

か

名和

か

摩

か

撫

か

囊

か

瑠

か

腦

かう

地震

か

納

か

衲

か

縑

か

萎

か

漢音

か

上

か

三言

内意

か

名印

か

内外

か

内記

か

内儀

か

内侍

か

乃至

か

上下をあけて中を

か

隱

か

繩手

か

撮

か

浪華

か

難波

か

直入

か

瘡

か

直衣

か

矯

か

蹇

か

鳴尾

か

名折

か

奈河

か

永井

か

長井

か

中居

か

轅

か

名代

か

薺

か

煩

か

腦

か

七尾

か

習

か

效

か

文章假字用格卷二

黄葉園藏

三言 四言

四十

成相

かむらひ讚岐郷名

乃

あんぢ

汝

かんぢ

難治

あんぢ

男兒

かんぢ

難字

あんぢ

名前

かまへ

澤瀉

かまわ水草

歴易

かまづ瘡

鯨

かまづ魚

名塩

かまわ地名

梨子地

かまぢ

詰

かまぢしふむ詞

熟

かまぢ剛染

四言

内方

かいてう

内辨

かいてん官

内藤

かいてう氏

内用

かいてう

内癰

かいてう

内談

かいてん

内奏

かいてう

内通

かいてう

内縁

かいてん

内宴

かいてん

内濟

かいてん

鋪魚

かいてん魚

苗代

かいてん

蛭蟬

かいてん虫

難波津

かいてん地名

猶々

かいてん

直會

かいてん公事

尚又

かいてん

尚更

かいてん

猶更

かいてん

等閑

かいてん

産業

かいてん

農

かいてん

成合

かいてん氏

長岡

かいてん氏

中折

かいてん紙

中川

かいてん氏

中絶

かいてん

長月

かいてん九月のつき

半井

かいてん氏

仲人

かいてん

中衛

かいてん外衛一對一兵衛とつう官名なり

長澤

かいてん氏

中澤

かいてん氏

擬

かいてん

納豆

かいてん

准

かいてん

習俗

かいてん

猶原

かいてん氏

俗

かいてん風俗のこと

難題

かいてん

南鐔

かいてん

南風

かいてん

難風

かいてん

何条

かいてん

南條

かいてん氏

南曹

かいてん

難澁

かいてん

難澁

かいてん

腦亂

かいてん

文章假字用格卷二

あ

黄葉園藏

藤原氏の學校勸學院と云ふ

九月のつき

源氏物語に見ゆ清涼殿とて詩を講せり云々

妙美	かみづ	難	かみづらみ	生貝	かまがひ	鯨江	かまづえ
生魚	かまうと	愁	かまひ	泥醉	かまき	投入	かげのこ
納采	かふさい	納銀	かみぎん	納受	かふとも	虫	かみづら
並河	かひがわ	並居	かみわ				

五言

埋名	かみづら	中違	かみづら	中直	かみづら
猶以	かみづら	名取川	かみづら	化生	かみづら
内評	かみづら	名西負	かみづら	内證	かみづら
蔑	かみづら	内外	かみづら		

菅家万葉に見えり
名に負と見えり

長生	かみづら	存命	かみづら	名付親	かみづら
難行	かみづら	難病	かみづら	荊	かみづら
名残借	かみづら	難拂	かみづら	雉倒	かみづら
啼澤女	かみづら	滑草	かみづら	涙川	かみづら
濟壞	かみづら				

六言

内大臣	かみづら	内教坊	かみづら	内親王	かみづら
尚侍	かみづら	内侍所	かみづら		
典侍	かみづら	仲人口	かみづら	長別	かみづら

三種の神器の神鏡をいつき
祭るところ禁中よあり

文章假字用格卷二

黄葉園藏

か 五言 六言 七言 四十二

この世がかりのながさ
まをれをりり

永訣 死にぞう あがきとるれ

随分 あがきく

猶小川 あらのをり

雙丘 京師西山より あらびのをり

南無三寶 あむさんぼう

南圓堂 あんだんどう
南都弘福寺の内より

難追祭 かたまり

南無三寶 あむさんぼう
遠江國淡路國五社の神事なり

亡跡吊 あきあきと

七言

鳴鳥合 あいのりあひせ
音を賞むる鳥を闘まはるあや

勿入淵 あひりそのより
河内茨田郡諸福村に在

難波都 あまののちよと
攝津國 仁徳帝の都なり

襦衫 あは志のころも
衣服

中臣稜 あつとこをらひ
大枝を中臣氏掌故に世俗にまほ称せり

七度詣 あつたびまうて
一日七度詣

七弦琴 あつとものこと

七瀬後 あせのころも
公事なり

南圓浮提 あんだんぶごい

南瞻部洲 あんぜんぶしう
須弥山の南の國をり

夏越後 あつとものころも

八言

長岡都 あながののちよと
桓武天皇の都

七織帳 あつとものころも
山城

九言 十三言

内外清淨 あひげきまうり

流灌頂 あふれとらんぼうり

難行苦行 あんどぎまうり

南無妙法蓮華經 あむみょうほうれんげきまうり

文章假字用格 卷二 七八九十三言

四十三 黄葉園藏

良部

一言

良 浪 羅 囉 邏 羅 樂

二言

頼 雷 來 萊

勞 朗 郎 粮

老 浪 牢 廊

狼 蠟 獵

三言

來 駕 雷雨 嬾 婦 禮 記

晶 紙 老 醫 老婆 老 尼

老 母 廊 下 勞 苦 老 父

老 後 老 師 老 子 牢 死

落 字 蠟 地 蠟 紙

四言

禮 盤 來 訪 禮 拜 雷 盆

來 臨 來 往 來 迎 禮 堂

來 歷 來 納 雷 火 來 陽

文章假字用格卷二

黃葉園藏

雷公	來縁	雷電	禮讚
癩瘡	雷神	埽造	羅綾
落花	亂妨	濫妨	亂邦
亂行	卯塔	亂花	亂抗
蘭秋	亂世	濫吹	亂調
勞煩	勞廢	狼狽	浪人
牢人	郎等	老女	老翁
老學	老眼	勞疾	老體
老僧	老足	牢浪	勞壽

三言 四言

四十四

老屈	牢興	牢居	老少	落梅	落帶	洛西	蠟燭
老耄	牢獄	老人	狼藉	洛東	洛陽	蠟色	臘月
粮米	朗詠	牢舍	老衰	落淚	落葉	臘梅	蠟石
老功	勞役	牢守	落胤	落題	絡繹	蠟印	羅背板

文章假字用格卷二 ⑤

黄葉園藏

五言

雷丸 らゐごん 来客 らいきやく 来春 らいしゆん

来生 らいしやう 痲病 らいびやう 羅漢樹 らいくわんじゆ

無鴈次 らゐぎんじ 亂中 らんちゆう 藍姑草 らんこそう

亂曲 らんきよく 濫觴 らんさう 老若 らうじやく

老母草 らうぼそう 老萊子 らうらいし 老武者 らうむしや

牢腐 らうふ 郎從 らうじゆう 癆症 らうじやう

老病 らうびやう 落著 らくちやく 洛中 らくちゆう

洛外 らくがい 洛掌 らくてい 洛飾 らくしやく

落城 らくじやう

六言

蘭奢待 らんしやたい 亂拍子 らんぱくし 良辨杉 らうへんしん

勞浪身 らうらうみ 朗詠集 らうえいしゆ 老人星 らうじんせい

洛陽花 らくやうか 洛神珠 らくしんじゆ 羅城門 らくじやうもん

七言 八言

來迎柱 らいりゆうちゆう 亂顛翻 らんてんぷん

勞而無功 らうゐりむこう 老少不定 らうせうふぢやう

うむい まく うむ

く う ひつか い

武部

一言

武年無无鵠勢霧夢

二言

郁子 氏類 無位 むか

三言

無意氣 むいさ 室原 むろふ 地名

武藤 むとう氏

嚮 むかう 迎 むか

無汰 むた

無類 むるい

向 むかう

無方 むほう

向井 むらい氏

無用 むよう

無體 むたい 無題 むだい

無能 むのう 連 むらぶ 氏

無藝 むげい 無縁 むえん

夢想 むさう 無銘 むめい

無刀 むとう 年禮 むらい氏

酬 むくい 報 むくい

無益 むえき 無妻 むさい

貉 むあふ 獸

四言

室之江 むろのえ 紀伊の牟婁郡の海をり

向峯 むかのみ 万葉に見えらる 嫡 むらひめ 正妻なり

羣集 むらむら 胸板 むかいた

無官 むくわん 無義道 むぎだう

無住 むぢゆう 無量 むりやう

迎火 むかひび 簇居 むらむら

刺 むかがひ 馬具 村岡 むらむら氏

無名 むなな 無上 むじやう

文章假字用格卷二

黄葉園藏

あめ さえけくらのま たよ かちとせらい かへ

無常 むじやう 無病 むびやう 無名 むな 無上 むじやう

無方者 むじやうめ 當面 むじやうめん 對城 むじやうじやう

逆風 むじやうかぜ 胛骨 むじやうほね 無道心 むじやうしん

胸支 むじやうし 魔犬 むじやうけん 綿羊 むじやうじやう

杆麴杖 むぎれすき 麴篩 むぎすひ 無名異 むなな

無盡藏 むじやうざう 齧齒 むじやうし 無名異 むなな

向日宮 むじやうのみや 向岡 むじやうのみ 武藏の國 忍岡の相向ふ地をとり

六言

夢窓國師 むそうこくし 夢窓枕 むそうまくら 紫色 むらさきいろ

紫草 むらさきぐさ 無間地獄 むげんぢごく 無佛世界 むぶつせかい

無品親王 むびんきんじやう 夢幻泡影 むげんぼうやう

七言

無始曠劫 むじやうくわうこつ 無上菩提 むじやうぼだい

無善造惡 むぜんざうあく

八言

無官大夫 むくわんだいふ 武者修行 むしやうしやうぎやう

九言

文章假字用格卷二

武藏坊辨慶 むさしなむらべんけい

無言大夫 むげんのだいふ 先音創 せんおんすゝめ むらべんけい

無言人言 むげんひとご むらべんけい

無言次侍 むげんじざむらひ むらべんけい

無言辨慶 むげんべんけい むらべんけい

無言正 むげんただ むらべんけい

無言 むげん むらべんけい

無言 むげん むらべんけい

文章假字用格卷之二 終

